



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

▶ 「museカフェ」特集

*「muse」(ムゼ)とは男女共同参画推進センターの愛称の一部。「むぜ」は鹿児島弁で“かわいい”の意。

■ オープンキャンパス企画「museカフェ」“ガールズ★Talk”を開催

約230人の女子高校生が来場、女子大学院生とのトークで盛り上がる!

8月4日、女子高校生や保護者約250人が来場した会場では、18人の女子大学院生が、自ら作成したポスターによる研究活動や学生生活の紹介のほか、進路相談に対応。女子高校生は、学部のプログラムとはひと味違った内容と雰囲気の中、女子大学院生から研究の醍醐味や、学生生活の様子を熱心に聞いていました。

参加した生徒からは、「進路選択の参考になった」「様々な研究活動の説明を受けたことで自分の視野が広がった」「研究内容がわかりやすかった」と好評で、女子大学院生からは、「研究を端的に説明するプレゼン力が鍛えられた」「他分野の大学院生との交流を通じて研究活動の刺激になった」といった感想がありました。



企画に学生が参画

本企画に学生の声を反映しようと、女子学生を交えた企画会議を6月7日に開催。今回のイベント名の“ガールズ★Talk”や『シール・ラリー』の導入などの提案を採用したほか、7月11日に開催した当日協力予定の女子大学院生による「museカフェ」では、“女子高校生目線”に立った提案が積極的に出されました。



当日の運営にボランティア学生がフル回転

16人の学生ボランティア(男女共同参画サポーター・ピア・サポーター・手話サークル)が、受付、会場への案内や今回初めて導入した『シール・ラリー』などで精力的に運営に協力してくれました。



大学院理工学研究科 博士前期課程1年
岩井田 早紀 さん

高校生が目を輝かせて私の話を聞いてくれて、大変嬉しく思いました。また、同世代の女子大学院生が研究を頑張っている姿に刺激を受け、私自身も頑張ろうと思いました。



教育学部2年 是枝 菜里奈 さん

今回自分自身の進路についての不安や悩みなども大学院生の方に相談できる貴重な機会でした。私自身も高校の時に来ればよかったなとすらやましく思ったほど素敵な企画ですので、来年もボランティアとして参加し、少しでも力になればと思います。

■ 研究支援員制度利用研究者・研究支援員間「museカフェ」を開催

研究支援員制度の検証と異分野間の研究者及び大学院生等間の交流を図るため、「museカフェ」を開催しました。

女性研究者とその研究支援員、田島真理子男女共同参画推進センター一長らが参加して、研究支援活動状況の現状等について意見交換。研究者から「子どもの入院時も研究が遅滞なく進められた」「実験がスムーズに進み予定より早く学会発表ができた」との声が聞かれ、研究支援員からは「基礎の実験手法が臨床でも応用できる」「統計処理の手法が研究に役立つ」など支援を通じて自身のスキルアップにつながっている現状が報告されました。

一方で研究者から、大学院生の研究スキルが支援効果を左右すること

や他分野の大学院生等による支援における論文投稿前のデータ流出への懸念などの問題点のほか、本制度の改善提案として、研究支援員の対象を学部学生に拡げること、大学院入学時の研究支援員制度の案内や実態に即した制度設計の必要性などが指摘されました。



〈郡元地区〉



〈桜ヶ丘地区〉

▶ 女性研究者キャリア形成支援

■ メンター制度スタート

女性研究者や女子大学院生が抱える悩み等について、先輩研究者(メンター)が自身の経験、知識やネットワーク等を活かして助言を行う「メンター制度」を創設しました。「メンター」とは、良き助言者、指導者、親身になって支援してくれる人という意味で、仕事やキャリア形成上の「お手本」や人生のよき相談相手になってくれる人のことです。助言を受ける人を「メンティ」と呼びます。現在「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、女性を対象にしています。



✂ メンター12人に委嘱状を交付、メンター制度について意見交換

12人のメンターへの委嘱状交付式を開催しました。式では、委嘱状の交付が行われた後、島 秀典男女共同参画推進室長(理事・総務担当)が、「みなさんの経験を生かして、若手の女性研究者や女子大学院生に対するキャリア継続やキャリア形成支援にご協力いただきたい」と激励の挨拶。引き続き、意見交換会では、メンターの役割の再確認のほか、男女共同参画推進センターとメンター間での活動における情報共有や、メンター・メンティへのヒアリング等による制度の検証、メンター制度の意義の周知徹底などについて意見がありました。



✂ メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー」を開催

7月4日、「コミュニケーション能力向上セミナー～よき相談相手となるために～」をメンター及びその他関心のある教職員・大学院生を対象として開催し、郡元と桜ヶ丘の双方のキャンパスで計46人が参加しました。

セミナーでは、講師の(株)インソースの大驛郁子氏がメンターの心構えや、傾聴力・質問力などのメンターに必要な資質等についてグループ・ワークを交えながら解説。大驛氏は、メンティへの支援活動はメンターにとっても成長の場であるとした上で「メンターは自らの経験をもとに“様々な引き出し”を用意し、自らの人生観を語ることでメンティの自立を側面支援してほしい」と述べました。



参加者からは、「メンタリングの基礎がわかった」「自身を振り返る機会となった」「メンターとしてのスタンスを今後のコミュニケーションに活かしたい」といった感想が聞かれました。

■ 第1回女性研究者キャリア形成セミナーを開催

～相馬先生(神戸大学特別顧問)が2011世界化学年女性化学賞受賞までの軌跡を語る～



9月14日、2011世界化学年女性化学賞を受賞された神戸大学特別顧問の相馬芳枝先生を講師として、特別講演会を開催し、教職員、学生及び一般市民約140人が参加しました。

相馬先生は、活性の高い触媒を活かした省エネかつ環境に優しい合成プロセスやCO₂の再資源化に関する研究の紹介を通じて、自身の研究のモットーである“シンプルケミストリー”についてわかりやすく説明。さらに、研究者としての成功の秘訣として、良きロールモデルを見つけること、研究資金獲得や研究者間のネットワークの形成の必要性のほか、女性研究者としてのハードルを乗り越えるために協力者を数多く持つことの重要性について指摘しました。

講演に続いて、相馬先生を囲んでの「museカフェ」を開催し、女性研究者や女子大学院生11人が参加。相馬先生は時折ユーモアを交えながら、女性研究者支援を巡る課題への助言や女性研究者自身の意識改革の必要性を述べた上で、「困難にぶつかっても、自分の研究の意義を見失わず、強い意志をもって“パイオニア”精神でがんばってほしい」とエールを贈りました。



■ スキルアップセミナー「英語論文の書き方セミナー」を開催

6月27日、東京大学等で英語論文の指導に当たっているミランダ・ハル氏を講師として、カクタス・コミュニケーションズ(株)の協力を得て「英語論文書き方セミナー」を開催し、研究者や大学院生約150人が参加しました。

ハル氏は、英語論文を書く際の心構えやスタイル・フォーマット、構成方法、日本人が犯しやすいクセや誤りについて、クイズなどを交えながらわかりやすく解説。参加者からは、「漠然としていたことが論理的に整理された」「日本語論文の作成にも参考になった」「犯しがちなミスを見直せた」などの声が聞かれ、これまでの論文執筆に対する考え方を再見直す有意義な機会となりました。



*当日参加できなかった方のために部局等に貸出用DVDを配布しております。詳細は総務担当係におたすねください。

■ 部局等における男女共同参画推進に係る目標・行動計画を策定

平成23年3月に策定した全学の「男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画」の着実かつ計画的な推進を図るため、14部局・13学内共同利用施設等が「男女共同参画推進に係る方針等」（「部局等方針」）を策定しました。「部局等方針」は、男女共同参画推進体制の整備、女性研究者増に向けた具体策（在職・採用比率増に係る目標・取組、女性研究者支援及び次世代女性研究者の育成等）、就業環境等の整備、意識啓発の推進、その他の取組について各部局等が目標・計画を掲げています。部局等は、今後「部局等方針」について、大学運営評価システムにおいて進捗管理をしていくことになります。

■ 男女共同参画推進体制の整備充実

平成24年度から、女性研究者支援や次世代女性研究者育成に係る様々な企画立案・実施を行う中枢的組織として新たに男女共同参画推進センターに「女性研究者支援事業本部」を置き、そのコアとなるコーディネータを配置しました。



男女共同参画推進センター
コーディネータ
山口 真理

人は、それぞれに幸せを求めて生きています。多くの先生方が、研究に向き合う姿からそれを強く思います。研究の世界には性別は関係ないということも分かりました。ライフイベント期の女性研究者に対応し、女性研究者が増えるための環境や制度を整えることで、より多様性のある職場の実現に向け、当センターの事業を推進しています。

「自分を大切にすることが、周りへの思いやりのある言動につながる」「人は人が支える」という信念の下、当センターのシンボルマークである若葉に、本学の教職員や学生の方々の、男女共同参画の意識という栄養分や水を注いでいただきながら、「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝く花を咲かせる」ためのお手伝いが少しでもできたらと思います。「つぶやきたい」「相談したい」時にはご連絡ください。スタッフ一同お待ちしております。一緒に考え、前に進んでいきましょう。

「自分を大切にすることが、周りへの思いやりのある言動につながる」「人は人が支える」という信念の下、当センターのシンボルマークである若葉に、本学の教職員や学生の方々の、男女共同参画の意識という栄養分や水を注いでいただきながら、「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝く花を咲かせる」ためのお手伝いが少しでもできたらと思います。「つぶやきたい」「相談したい」時にはご連絡ください。スタッフ一同お待ちしております。一緒に考え、前に進んでいきましょう。

工学部における男女共同参画推進の取組

《 女性教員ゼロの解消を目指した取組 》



工学部副学部長
内山 博之

理工学研究科工学系には、現在117人の教員が在籍していますが、平成19年来5年間女性教員ゼロの状態が続いています。

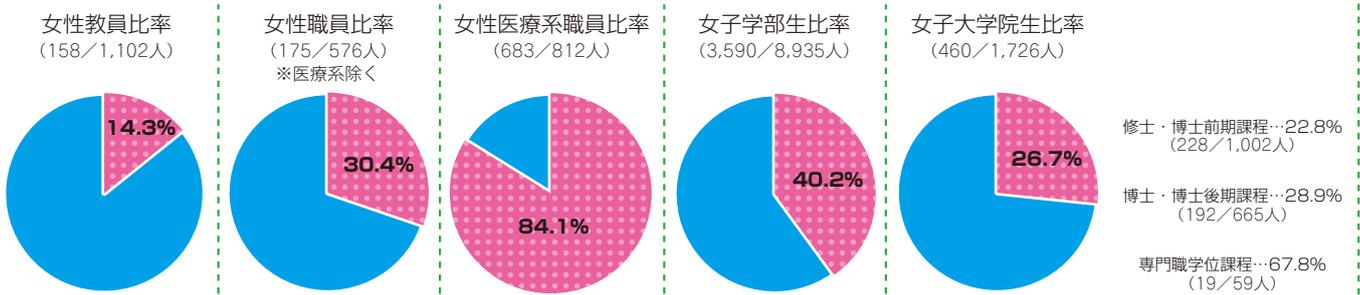
この女性教員ゼロの状態の大きな原因として、元来国内の工学系の女性研究者や大学教員が非常に少ないということがあります。例えば、私の所属する電子情報通信学会の平成17年時点の一般会員の女性比率はわずか2.2%に過ぎません。私たち自身もこの極端な男女比は決して好ましいとは思っていません。工学といっても様々な分野があり、女性の優れた感性が活かされる領域が数多くあります。たくさんの女子学生が工学部に入学し、その中から多くの研究者や大学教員が輩出されることを目指して努力するべきです。しかし興味分野などの性差を考えると、工学系の女性研究者が今後飛躍的に増加するとは思えません。

さて女性教員ゼロの状態の解消を目指した理工学研究科工学系の取組を紹介します。第一に、女性に限定した教員選考というポジティブ・アクションです。住吉工学部長のリーダーシップの下、助教ポストに一つの女性限定枠を設け、全学科の研究分野を対象に今年7月から公募を開始しました。10月から選考に入り、来年4月の着任を目指して年内に決定する予定です。また、職階によらず女性教員を採用すると、学科毎の採用枠を計算する際に女性教員一人につき0.3人分の枠を付与するという優遇策も合わせて実施し、各学科の積極的な女性採用を促します。さらに、英語教育を行う特任の女性教員採用も計画しており、これらの取組により5年ぶりに女性教員ゼロ状態の解消が確実となり、近い将来複数名の女性教員が同時に在籍することも期待できるようになりました。

また、福井研究科長の方針で女性研究者の裾野拡大策の一環として、技術者教育の重要なサポート役である6人（25人中）の女性技術職員の研究職へのキャリア・アップを支援しており、早速10月に博士前期課程修了者の3人が本学理工学研究科博士後期課程へ社会人入学します。

本学工学系の女性教員が急速に増え続けることを期待することは残念ながらできませんが、少数であっても女性教員が男性教員と共に活き活きと活躍できる職場となるように願っています。

鹿大の男女共同参画の現状（平成24年5月1日現在）



鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。



郡山 千早 准教授 (医歯学総合研究科)

Profile

1991年3月 鹿児島大学医学部卒業
 1991年5月 医師免許取得
 1995年3月 鹿児島大学大学院医学研究科博士課程修了、博士(医学)学位取得
 1995年4月 鹿児島大学医学部公衆衛生学講座助手
 1996年5月 同 講師に昇任
 2002年6月 同 助教授に昇任
 (2003.4~ 大学院医歯学総合研究科助教授 2007.4~同准教授)

○がん発症の因果関係を疫学的に追究

主専門はがん疫学で、発がんリスクに関わる環境要因(食生活、喫煙・飲酒状況等)やウイルス側の要因および発がんのメカニズムの研究です。Epstein-Barrウイルスやヒトパピローマウイルス関連がんの分子疫学的研究を行ってきました。また最近では、日本でも増加傾向にある乳がんの疫学的研究を行っており、現在、血液中の不飽和脂肪酸レベルと乳がん発症リスクとの関連を中心に検討を進めています。

○予防医学研究を目指すきっかけは指導教員のアドバイス

医学部では、学部生の頃に自習研究で配属された研究室(ウイルス学)で、研究の真似ごとをスタートしたわけですが、先生や先輩と様々な議論の中で自ら仮説を立て課題を解決するという研究の醍醐味を知りました。その当時の指導教授の「これからは予防医学が重要となる」という言葉が卒業後の道標となりました。

○病気を予防する研究に関わる責任

病気とある要因との因果関係を解明するには、定量的・客観的なエビデンスを積み上げることが必要で、疫学研究者の役割もその点につきます。しかしながら、病気の予防を目指す場合、自分たちの出した結果が、即病気の予防に役立つとは限らないし、治療効果のように目に見える成果を短期間で得られないところが悩ましい。ただ様々な研究スタイルの中から自ら選び、それにより新たな知見を導き出すことにやりがいを感じています。

○家族や周囲に支えられての育児と研究の両立

これまで育児と研究を両立してこられたのは、家族や周囲の皆さんの理解と協力があったことだと思っています。特に子ども

も小さいときは無我夢中でしたが、無理すぎないことも大事ですね。現在「研究支援員制度」を利用して、血中不飽和脂肪酸測定前の血液試料の調整とデータ整理を研究支援員に手伝ってもらっています。おかげで、私自身はデータ解析等に集中して取り組むことができ、それまで停滞気味だった研究の進展が図られ、助かっています。

○研究者を目指す方へのメッセージ

自分の能力を生かす道として研究者という職も是非、選択肢に入れてほしいですね。期待どおりの答えが出ないことも多いのですが、自らの仮説に基づいてそれを実証できたときの達成感というのは、何事にも代えがたいものがあります。それから、視野を広く持って、一度は国外で学ぶ機会を求めてもいいですね。今振り返ってみると、私のロール・モデルは留学時代に指導して頂いた女性研究者でした。

とにかく様々なことに興味を持ち、好きなことの中に自分なりに意義を見だし、自ら“楽しみ”ながら挑戦してみてください。



研究支援員による血中不飽和脂肪酸測定用試料の調整作業

Information

《これからの予定》

▶ 11月	「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってかっこいい～」(水産学部11/11、理学部11/17、共同獣医学部11/17、工学部11/18、農学部11/24)
▶ 11月 9日	出前授業(志學館高等部1年生対象)
▶ 12月 3日～21日	中央図書館企画「男女共同参画に係る図書紹介・貸出サービス」及び男女共同参画推進センターポスター展(仮称)
▶ 12月 6日	第2回 女性研究者キャリア形成セミナー(桜ヶ丘キャンパス)
▶ 12月 15日	第4回 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム(大分)
▶ 2月	平成25年度第1期研究支援員制度利用者募集開始



《お知らせ》

●メンター制度のご案内&メンター募集

制度を利用したい又は利用を考えている方は、お気軽に男女共同参画推進センターへご連絡ください。また、メンターになっていただく教員(男性の教員の方大歓迎)の方を随時募集していますので、男女共同参画推進センターへご連絡ください。

●《女性研究者ロール・モデル誌》 発刊します!

学内及び卒業生の女性研究者16人のそれぞれのキャリアや研究活動のほか、パーソナリティを紹介するロール・モデル誌を12月発行予定です。

●大学入試センター試験時学内託児サービスを実施します。

平成25年1月19日と20日の実施を予定しています。おって利用希望照会をします。

●ベビーシッター費用割引券発行事業のご案内

教職員の皆様が就労のためにベビーシッターによる在宅保育を利用される際の料金の一部を補助する事業を行っています。詳細はホームページをご覧ください。

編集後記

「女性研究者研究活動支援事業」も折り返しを迎えました。部局等における目標・計画も策定され、全学的に推進していく基礎が整ったところです。今後事業終了後を見据え取組を加速していかねければなりませんので、皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願い致します。